

1 道路・駐車場の高度化支援

1 交通表示板やインターネット、携帯電話による道路交通情報の提供 運用

サービス概要

交通表示板やインターネット、携帯電話によって道路の渋滞情報や目的地までの所要時間を案内するサービスが既に運用されています。これによって、利用者は渋滞状況を把握しながら快適にドライブできます。

事例箇所

交通表示板:名古屋市内、豊田市内
インターネット・携帯電話:日本道路交通情報センターのホームページ

事業効果

交通表示板での情報提供により、豊田市では、走行時間が10%削減でき、平均速度が5%向上したとの効果が報告されています。



交通表示板での情報提供



インターネットでの渋滞情報提供

2 パーク&ライド駐車場管理 運用・実験

サービス概要

パーク&ライド駐車場の利用促進を図るため、駐車場案内情報(場所や満空情報等)と鉄道やバスの運行情報などを一体的に携帯電話やカーナビなどに提供します。函館市では、観光客を対象として携帯電話による情報提供を行ったほか、名古屋市ではカーナビへの配信も行いました。

事例箇所

愛知県名古屋市(社会実験)
北海道函館市

事業効果

函館市の実験では、パーク&バスライド駐車場の利用が実験前の約4倍に増加し、利用者の約9割が利便性を評価しています。また、経路情報や観光情報などの多様な情報提供へのニーズが確認されました。この実験を通じて、循環バスの運行と携帯電話での情報提供サービスが本格運用となりました。



名古屋市のパーク&ライド実験の概念図

2 公共交通の支援

3 バスロケーションシステム 運用

サービス概要

バスの走行車両位置の情報や到着予測時刻などをパソコンや携帯電話のインターネットに提供します。通常のバスと低床式バスで表示を区別することにより、高齢者や障害者への利便性も向上します。

事例箇所

愛知県名古屋市、愛知県豊田市、愛知県三好町、青森県青森市、島根県松江市、富山県富山市、静岡県浜松市 など多数

事業効果

現在のバス利用者に対しては、「バスの待ち時間が有効に過ごせるようになった」、「長時間バス停で待ち雨風にさらされることがなくなった」など、利便性向上の観点で効果があることが報告されています。



青森市のバスロケーションホームページ

名古屋市の市バス接近情報
(到着予測時刻は提供していません)

4 交通関連ICカード 運用

サービス概要

JR東日本のSuicaに代表されるように、鉄道やバスの乗車券をICカードとするサービスです。ICカードにより、運賃のキャッシュレス化と乗継ぎの利便性向上につながり、他のサービスを付加することも可能です。コスト削減や福祉対応などの観点から、中小地方都市の鉄道・バス会社で多く導入されています。

事例箇所

首都圏(Suica)、近畿圏(ICOCA・PiTaPa)、長崎県内バス会社7社、香川県高松市(琴平電鉄)、愛媛県松山市(伊予鉄道)、山梨県(山梨交通)、北海道(北見バス)など

事業効果

利用者にとっては、「乗車時に小銭を準備する必要がなくなり便利」との意見が多く、特に高齢者の評価が高い点が特徴です。一方、交通事業者にとっては、従来の料金収受システムに比べコスト削減が図られるほか、環境貢献等企業イメージの向上にもつながっていると評価されています。



近畿圏ではPiTaPa専用の飲料用自販機も設置されています。